

これからの多文化防災を考える

仙台市内には約1万人の外国人が暮らしています。

外国人の中にも留学生、仕事に従事している人、その家族、観光客など様々な立場の人がいます。「外国人」とひとくくりにせず、国籍や立場の違いを認識し、理解し、共有することが大切です。

東日本大震災以降に、日本語がわからなくても指差して意思を伝えられる「ヘルプカード」が宮城県で、避難所に各国の言語で掲示するための「災害時多言語表示シート」が仙台市で作成され、若林区内の各市民センターに常備されます。



問い合わせ：
宮城県 みやぎ外国人相談センター
022-275-9990

仙台で開催

第3回国連防災世界会議

—国連防災世界会議とは?—

被災地の復興を世界に発信するとともに、防災に関する我が国の経験と知見を国際社会と共有し、国際貢献を行う重要な会議です。

〈会議の特徴〉

- 1) 国連総会で決議された国連主催の会議
- 2) 国連加盟国、国際機関、NGO等が参加
- 3) 今後の世界の防災戦略を策定
- 4) ホスト国日本の防災ノウハウを世界に紹介
- 5) 東日本大震災の経験と教訓を国内外へ発信

〈期間〉

2015年3月14日(土)~18日(水)

〈会場〉

仙台国際センター、せんだいメディアテーク ほか

編集後記

市民センターで行われた合同防災訓練で、「災害の時はラップや新聞紙が役に立つ事を教えてもらえて良かった」という中学生の言葉を聞き、若い力と地域の情報のかけはしになるかわら版にしていきたいと思っています。

お問い合わせ先

おきのかわら版編集室(沖野市民センター内)
〒984-0831 仙台市若林区沖野 7-34-43
TEL: 022-282-4571
FAX: 022-285-4681
e-mail: okino-siminc@hm-sendai.jp



沖野かわら版

第五号

平成27年3月1日発行

2015年1月17日、阪神大震災から20年が経ちました。この震災は、建物・高速道路の倒壊や火災などで、6434人の犠牲者が出た、いわゆる「都市型災害」でした。

テレビに映し出される悲惨な光景に大きな衝撃を受けたことを覚えています。

まさか、それ以上の災害が自分達に襲いかかってくるなんて想像もしませんでした……!?

東日本大震災から4年、我が町仙台に於いて、第3回国連防災世界会議が3月14日(土)~18日(水)まで開催されます。その中で、東日本大震災の経験と教訓を国内外へ発信するようですが、被災体験の風化を防ぐためにも、震災の記憶を語り継ぐ活動がより一層求められていると思います。

今回の「沖野かわら版第五号」は、『若い力・女性の視点・災害弱者・防災グッズ』をキーワードに作成しました。

地域住民の防災に対する意識向上に繋げることが出来れば幸いです。



お手元にありますか?



昨年10月に沖野中学校区内の全世帯に配布された「沖野中学校区避難所運営&総合防災訓練マニュアル」は、お手元にありますか?

このマニュアルは、災害時の携行品、避難行動、避難所でのルールなどが詳しく、わかりやすく書かれています。

もう一度、家族で話し合っ家族のルールを作ってみてはいかがでしょうか?

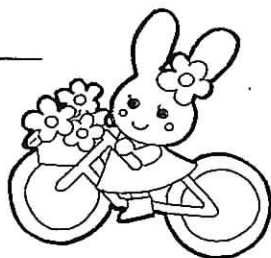
マニュアルを作成した沖野中学校区災害対策委員会主催の総合防災訓練が10月25日(土)に沖野中、沖野小、沖野東小、沖野市民センターで実施されました。

沖野市民センターでは、町内会と中学生と一緒に負傷者弱者搬送訓練と非常時における応急手当訓練などを行いました。

普段あまり顔をあわせることがない中学生と訓練ができ、頼もしく感じられたという声を多数聞くことができました。



エチケット ABC



自転車への交通違反切符を交付

2回以上の違反で講習の対象となり、受講しないと5万円以上の罰金が科せられます。

14項目の悪質運転危険行為が6月1日に施行

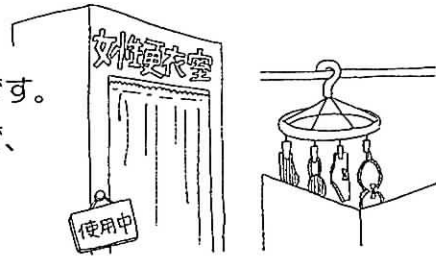
- ・信号無視
- ・路側帯の歩行者妨害
- ・一時停止違反
- ・酒酔い運転
- ・携帯電話を使用しながら運転し事故を起こしたケースなどの安全運転義務違反など

など



女性の視点からの避難所運営.....

避難所は誰かが作っているのではなく、自分たちで作るものです。特に女性が必要なものに関してはデリケートなことがあるので、女性のリーダーが必要になってきます。

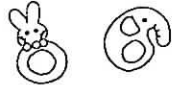


女性に配慮した避難所づくりの例

○プライバシーの確保

更衣室、女性専用洗濯物干場、授乳スペースなど

○夜間の照明、仮設トイレなど、通路も工夫



乳児連れの母親が
備蓄用品に加えておくとよいもの

生理用品、母子手帳のコピー、
ミルク、使い捨て哺乳瓶、
離乳食、紙おむつ、おしりふき、
子どもが好きなお菓子やおもちゃなどを
準備しておくとう安心ですよ



減災に向けて...

○最初の一撃で死なないために

- ・耐震診断をしておく
- ・家具の固定、ガラスの保護シート

○非常用持ち出し袋は重さも重要

男性最大 15kg

女性 10kg が目安

- ・我が家に本当に必要な装備を揃える
- ・非常持ち出し袋は背負うタイプにして、両手を使える状態にしておく

○備蓄しておくもの

- ・1週間分の水
- ・電池/トイレットペーパー/カセットボンベ/生理用品など
- ・食料品
(乾パン、氷砂糖のような賞味期限の長いものだけではなく、ポテトチップス・チョコクッキーのように高カロリーや塩分多めのものがエネルギー源になってよい)
- ・ガソリンは常に満タン



○自宅や避難所での生活を確保

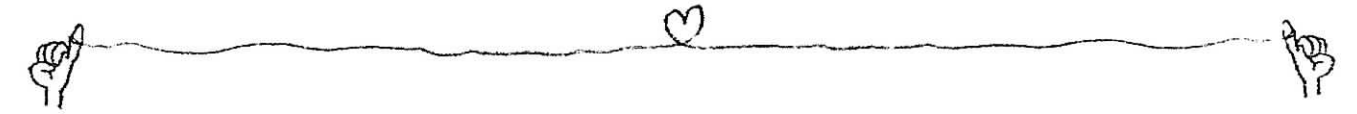
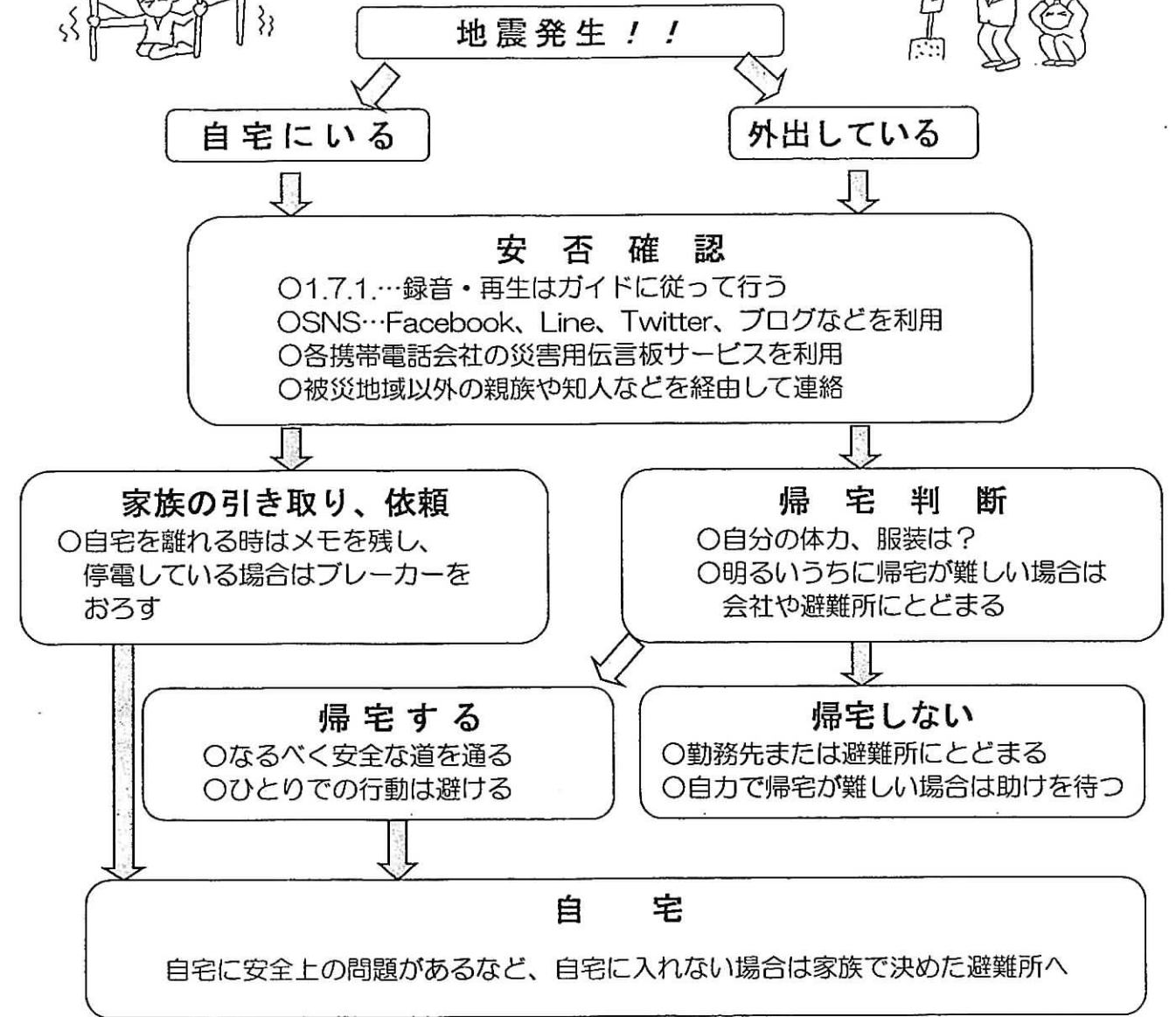
- ・非常用給水バッグ/ローソク/ポンチョ/使い捨てパンツ
- ・救急セット(絆創膏、手袋、ビニール、ガーゼ、はさみ、三角巾など)
- ・防犯アラーム/ホイッスル

○100円で購入できる防災グッズ

- 折りたたみ水筒 1.2ℓ/氷砂糖/携帯ミニトイレ/LEDライト(9時間、100時間)/充電器/アルミ温熱シート/



地震発生時の行動マニュアル



災害時帰宅支援ステーション

災害発生時にこのステッカーが貼られている店舗において、水道水やトイレ、道路情報等の提供を受けられます。外出する際に確認しておくことも大切です。※店舗によっては、全ての支援を提供できない場合があります。